

表

実務経験証明書

下記の建築大工工事業に係る受講申請者の実務経験の内容は、下記の通りであることを証明します。

証明者
 所属企業名 会社印
 代表者氏名 役職印

年 月 日

受講申請者の氏名		証明者との関係	
受講申請者の生年月日	年 月 日	建築大工の実務経験年数	年 月

受講資格に係る実務経験の内容

職長欄	実務経験の内容	作業内容	実務経験年数
			~ 年 月 (年 月)
			~ 年 月 (年 月)
			~ 年 月 (年 月)
			~ 年 月 (年 月)
			~ 年 月 (年 月)
			~ 年 月 (年 月)
			~ 年 月 (年 月)
			~ 年 月 (年 月)
			実務経験年数合計 年 月
			うち職長経験 年 月

裏面に記入例、並びに記入上の注意を記載しています。

誓約欄

この証明事項が事実と相違無いことを誓約いたします。

氏名 印

裏

記入上の注意

1. 実務経験の証明者は事業主とします。ただし、事業主が証明できない場合は、当該経験を証明できる立場の者（当該経験に係る上位の下請）の証明書とします。

申請者が事業主や一人親方の場合は、誓約欄に署名・捺印してください。その上で、職長教育

2. 修了証、又は事業主以外の元請の建設業者等による証明書（任意書式）の写しを添付してください。
3. 証明者との関係は「社長と従業員」の様に記入してください。
4. 職長として従事した期間は職長欄に「職長」と記入してください。

但し、住宅建設を中心とした現場及び中大規模の建物を建設する現場における職長（立場）の取り扱いは、それぞれ次のとおりとします。

- (1) 住宅建設を中心とした現場における職長（職長を棟梁と読み替える。）とは、以下の能力を持った技能者とします。

- ・ 建築大工工事に關する一連の作業が正確に手戻りなくできる熟練技能を持つ技能者。
- ・ 現場監督が気付かない現場の問題点を指摘するなど工法や技術等について現場監督と協議し、作業手順を組立て、見習い・中堅技能者を統率し、的確な指示・調整等を行うことのできる技能者。
- ・ 必要な資材の検討や工期管理ができ、他の職方と段取りの調整ができる技能者。

- (2) 中大規模の建物を建設する現場における職長とは、総合建設業の基で下請となる他の専門工事業と同様に、現場毎に職長としての能力・役割を持ち、工務店等により建設キャリアアップシステムに入力された技能者とします。

5. 実務経験・作業内容は所属会社・職位ごとの内容を記入してください。

記入例

職 長 欄	実 務 経 験 の 内 容	作 業 内 容	実務経験年数	
	住宅建築工事	木工事作業	2000年 4月 ~ 2007年 3月	(7年 0ヶ月)
	住宅建築工事	木工事作業	2007年 4月 ~ 2012年 3月	(5年 0ヶ月)
職長	住宅建築工事	木工事作業	2012年 4月 ~ 2018年 3月	(6年 0ヶ月)
			~ 年 月 年 月	(年 ヶ月)
			実務経験年数合計	18年 0ヶ月
			うち職長経験	6年 0ヶ月